



「学者たちは
その星を見て
喜びにあふれた」

(マタイ 二十一)

あゆみ

2020年
クリスマス号



発行所
カトリック高幡教会
あゆみ編集委員会
TEL042(592)2463
FAX042(592)2464

主任司祭 ペロツティ・ジャンルーカ

主の平和！

皆様、今年も残り少なくなつてまいりました。お元気でいらつしやいますか。コロナ禍の厳しさは続き、あつというまに私たちはクリスマスも新年も迎えています。

パンデミックという劇的な体験の中、終わりの見えないトンネルを歩んでいるような私たちの信仰、そして現代の生き方は、ふりかかると耐え忍ぶだけではなく、様々な深遠な問いかけに、一人ひとりが、また教会共同体、社会として、正しい道を探し求めて答えていかなければならないことだと思えます。

マタイ福音記者は、「学者たちはその星を見て喜びにあふれた」(二一・十)と述べています。

私たちはどんな状況にあつても、神さまが「星」のようなみ言葉などを通して私たちを闇から光へと導いてくださることを信じています。み言葉とは、もちろん人となられた神の「言」(ことば)であるイエスさまご自身でもあれば、ま

た聖書のことでもあります。しかしそれ以上でもあるでしょう。イエスさまを信じ彼の声に耳を傾けてみ心を行つてきた人たち、特に聖人たちの教えと模範にも「神のみ言葉」が響いて私たちにとって輝かしい「星」となるでしょう。

皆様に、聖カルロ・ボッロメオ
(Carlo Borromeo)——ミラノ大司教——
イタリア一五二八(一五八四)とポール・クロードル (Paul Claudel)——劇作家、詩人——フランス一八六八(一九五五)の言葉をご紹介したいと思います。「愛する子供たちよ、私たちは常に神の御業に思いを馳せ、繁栄の時だけでなく、逆境においても、神のみ摂理を知らなければなりません。このようにしてのみ、私たちは、み言葉や聖人の模範が繰り返して教えてくれるように、あらゆることにおいて神を賛美し、神に終わりのない感謝をささげることができるのです。また、私たちは、神が私たちに何を望んでおられるのかを理解し、実現しようとしなければなりません。神は、常に私たちにとつて善となることだけを考えておられるのですから」

これは、一五七九年一月に聖カルロ・ボッロメオがミラノの街に宛てた言葉です。一五七六年の夏から数ヶ月にわたつてミラノの町と教区はペストに襲われました。そして、一五七八年一月二十日、ミラノは悪からの解放を宣言しました。ミラノのペスト被害者数は一万八千人以上にのぼり、その数は人口の約十分の一にあたります。

聖カルロはペストの劇的な体験を、神の恵みを知り、神を知り、自分自身を知り、何があつたのかを知るための機会として生かすよう、同時代の人々に呼びかけています。悲劇の中で、聖カルロは、改心の特徴とする新しい道に踏み出せるよう勇氣ある言葉を響かせています。もしミラノの人々がこの悲劇によつて得られるキリスト教の知恵あるメッセージを忘れ去つてしまふ愚か者となり、以前のような生活に逆戻りしてしまふなら、このあまりにも多くの苦しみ、あまりにも多くの死は、すべて無駄になつてしまふでしょう。

一方、ポール・クロードルは次のように述べています。「神は苦しみを取り除くためにいらしたのではなく、それを説明しにいらしたわけでもありません。彼は苦しみをご自身の存在で満たすために来られました。苦しみの中で分かち合うためにいらしたのです」

皆様、飼葉桶の中に眠っている乳飲み子の輝く顔を見つめながら信仰生活を守り、その恵みが一人ひとりまた共同体と社会のための力や希望となりますように願っております。

皆様、良き聖なる降誕祭となりますようお祈り致します。

Merry Christmas !!!

信徒会だより

信徒会委員長

新型コロナウイルスの感染拡大により、まだまだ厳しい状況が続いています。が、十月三日より七十五歳以上の方も対象となり、すべての方がミサに与えることができるようになりました。神様に感謝いたします。しかし、現在も東京では大変厳しい状況になっていますので、感染対策を万全に行い、私たちの健康が守れるようにしていきたいと思えます。ご協力をお願い致します。

以下、主な内容を紹介します。

- 一、敬老ミサを九月二十一日に行いましたが、このミサに与れなかった方三軒にルカ神父様と訪問し、プレゼントをお渡ししました。
- 二、九月二十六日より十月十日の間、各地区委員との懇談を行い、意見交換をいたしました。
- 三、十一月十四日より十一月二十九日の間、各活動グループとの懇談を行い、意見交換をいたしました。
- 四、九月二十日より教会学校と子どもミ

サを再開しました。月一回の勉強会も行っていきます。

五、十二月二十四日(木)夜半のミサで成人の洗礼式が行われます。

六、信者総会は二〇二一年二月六日(土)に行う予定です。あらためてお知らせします。

七、姉妹教会交流会・礼拝を二〇二一年二月十四日(日)高幡教会にて開催の予定です。

八、二〇二一年五月十五日(土)は高幡教会創立五十周年記念ミサの予定です。

待降節が始まり、フランシスコ教皇は「待降節は、絶え間なき希望への呼びかけ」と題して、次のように述べられています。

「今日、待降節第一主日から、典礼暦上の新年が始まります。教会は典礼暦を通してキリストと救いの歴史の重要な出来事を記念します。こうすることによって教会は、母親のようにわたしたちの日常の歩みを照らし、毎日の営みを支えてくれます。そして、キリストとの最終的な出会いに向けて、準備してくれるのです」と。

明るく希望が持てる新しい年を迎えることができよう、神様、マリア様に祈りながら待降節を過ごしていきたいと思えます。

姉妹教会特別寄稿

一枚のクリスマスチラシ

日本ホーリネス教団 由木キリスト教会

小枝功 牧師

私は由木での伝道牧会をスタートしたのは一九七二年の十二月です。個人的には瞬く間の出来事としか思えない年月ですが、思えば長い年月が経過したことになります。長い年月を過ごした割には礼拝人数が伸びなかったとか、牧師としては残念な側面もありますが、同時に、これはイエス・キリストの介在なしには決して起こらなかったであろうと思うことをいくつも経験したことです。そのうちの一つの出会いは高幡カトリック教会とコンスタン・ルイ神父様との親密な交わりの出会いであったことは言うまでもないことです。

二〇二〇年はコロナ禍の中でのアドヴェントを迎えています。クリスマスを前にして私には忘れられない出来事を記憶しています。

見るからに品行方正で、現にまじめな紳士。この方が深夜、運転中、あるところで、急に飛び出してきた男性を車ではねてしまった。むろん、飲酒運転などでは全くなく、状況からすると被害者による自殺であったかもしれないと推測されたのです。けれど、彼は一瞬のパニック

クから、現場から立ち去ってしまったのです。被害者はホームレスの方らしく、身分を証明する何も所持しておらず結局、氏名すら判明しなかったのです。けれど警察の捜査の結果、運転をしていたその方は結局逮捕され、短い刑務所生活をしたのです。そのことで本人も家族も深く苦しんだのです。

ところが、この一家の皆さんはクリスマスに配布された由木教会の教会案内を何年分も大切に保管していたのです。そして礼拝には来られませんでした。ある日、奥様が、ウイークデーに行われていた私のキリスト教入門講座に出席しはじめ、やがて夫やお嬢さんも加わることがありました。私はこのままご一家は由木教会の礼拝に出席し、洗礼に至るか、期待していたのです。ところが、ご一家はある日を境に、突然ぶつかりと音信が途絶えて、いづれかへ引越しをなさったようでした。ところが、何

年かして、この一家があるところの小さな教会で、一家全員で教会のために活躍していると聞きました。キリストの福音を通して新しい歩みを始められたのでした。……

それにしても一瞬の出来事が一家の平和を破壊しかけたのです。ひき逃げはたしかに犯罪ですが、一瞬のパニックで自分を見失うということはあつてはならないけれど、時折ありうることです。それは誰でもわかっています。これを起こしたとき、自分でも知らない自分が、ひよいと身をもたげたということかも知れない。それでもこの出来事は教会を通してそれだけでは決して終わらない可能性をもっていることをはっきり物語っています。

人生には様々な出来事が積み重なっています。突然の出来事が積み重なって積み上げてきたすべてをぶち壊すように思われる出来事が起こったように見えることがあるかもしれない。でもこのご家族にとつては、たまたま気になって取り分けておいた由木教会のクリスマス・チラシがご家族の再生のきっかけとなったのです。わたしは当のご本人のお父さん、お母さん、お嬢さんたちのために日々、祈ります。それにしても私どもが配布していたA5版のクリスマスチラシを大切に保管されていた。今年のクリスマスはコロナ下のクリスマスです。でもコロナ禍の中でこそ何事かの神の出来事を期待して良い。クリスマスおめでとうございます。



受洗者寄稿文

わたしのあゆみについて

マルタ 川崎有紀

川崎有紀会様は二〇一九年十二月二十四日眞生会館にて森司教様より洗礼を受けました。(編集部)

私が初めて教会に行ったのは、小学生の低学年でした。近所の友達に誘われて、いわゆる「日曜学校」です。多分、プロテスタント教会だったと思います。子ども心に何となく温かい雰囲気を感じた。地よかつたことを覚えています。

時が過ぎ、進学する高校を探していました。私の母は、自分もミッション系の学校を卒業していたこともあり、私に、カトリック系の学校を勧めたのです。母一人で見学に行ったので、私は、言われるがまま、合格出来るならどこでもいいというような感じでした。高校生活は女子だけでしたけれど、とても楽しかったです。先生方は半分以上シスターで、最初は見分けがつかなくて困りました。田舎にあるので静か、穏やか、和やか、のびのび、世間とは少しかけ離れていました。登校すると、坂の上にマリア様の偶像があって、「おはようございます」とお辞儀をし、バスの運転手さんにも、知らない人なのに「ありがとうございます

た」と挨拶する、不思議な感じもしましたが、卒業前には、自然としていました。高校生の頃、受洗しようかな、と思って、母に相談したのですが、即座に、NOでした。まさかそこまで、思っていないかっただけでしょう。

その後、大学はキリスト教系でしたが、結婚して子育てして、仕事して、キリスト教から離れていました。それでも、引越しても聖書はずっと手に取って読んでいました。そして、仕事上で資格を取るための学校に通っていた時、隣に座っていた方と友達になりました。土曜、日曜と授業があるのに、その方は、日曜日必ず遅刻するのです。理由を尋ねると、ミサがあるから、とのこと。私服だったからわからなかったのですが、礼拝会のシスターだったのです。私は、ずっと心にあつたキリスト教のお話を伺ってみたい。その方から、もつときちゃんと知りたいならば、眞生会館の森司教様のお話を聞いてみたら、と教えて頂きました。森司教様のお話は、神様は弱くて、心貧しい人にこそ寄り添ってくださる、人はみんな、良いものとしてお造りになられたのだ、とのこと。私は、ある時「自分などにでも、イエス様は、隣にいてくださいますか？」と司教様にお聞きしたら、司教様は、ニコニコして「もちろんですよ」と答えて下さいました。それで、今、こちらの教会に通わせていただいております。まだまだ、わからない事ばかりですが、これから、学んでいきたいと思っております。

誌上報告

わたしの近況

教会での会話が少なくなったこともあり信仰の取り組みも含めた近況を誌上で報告しあうという趣旨で原稿を頂きました。(編集部)

教会を尋ねて来る人が増えています！

モニカ 島まり

コロナになって今まで常識として疑問に感じなかったことが、急に変わってしまったと感じます。「命に優劣はない」「病者の塗油にはいつでも与れる」「人生の最後は終油の秘跡に与り家族に見送ってもらえる」など……。何か心にもやもやがあります。

最近、教会受付にいて四十代くらいの男性が続けて二人「お祈りさせてください」「ミサに与りたいのですが」と訪問されました。今までにないことです。コロナによって人生が変わったのでしょうか。抛り所になる何かを探しているのでしょうか。カトリック教会がその一つとなれることを願っています。

目に見えないコロナウイルス。パンデミックの中、目に見えないものに支えられて生きている。生かされている私。
 自粛生活、散歩しながら普段、見ていなかった身近な所に大切なもの、神の恵みが溢れている事に気づき、驚きと喜びの連続。

マリア・クリスティーナ 長谷場 弘子

主に委ね、祈りながら



カトリック高幡教会

(12/9 ルカ神父様撮影)

友人からの言葉の贈り物、祈り、信仰を深める導き、分かち合いに励まされる日々。離れて会えなくても、共に生きている実感。

コロナ禍、出来ない事を嘆くのではなく、きょう一日を与えられた幸せを感謝し、精いっぱい生きたい。主に委ね、祈りながら。

「人は心に自分の道を思い計る。しかしその歩みを導くのは神である」箴言十六・九

陽光をあび、春を告げる花の芽が顔を出し始めています。希望！

早く賑やかな笑い声が戻りますように

ルチア泉 塩子

ミサのなかった頃から今まで、ほぼ毎週教会に行って、季節の写真を撮ることを楽しみにしています。早春の若芽、緑が濃くなり、紫陽花に彩られた初夏、夏空、栗が実ったら、見事な紅葉がルルドを囲みました。そしてこれから静かな冬が来ます。景色の移り変わりが、いつもより心にしみるように思います。

前庭で時々皆さんとお話するのは何より楽しい時間です。つらいこと、寂しいことも多くありますが、自然の美しさは神さまからの贈りもの、いつも沢山の

恵みをいただいていることを実感します。早く教会に賑やかな笑い声が戻りますように、「アカシア会」もよろしくお願ひいたします！

心待ちにしていた御聖体

イグナチオ 原部佑基

九月二十六日水戸教会でドネガン神父様から洗礼を受け、早二ヶ月が過ぎました。始めて頂いた御聖体の味は、甘いとも苦いとも言えない素朴で自然な味でした。

思い返せば、ザビエル神父様から御聖体の味についての説明があり、それを味わうことをずっと心待ちにしていました。そして、ルカ神父様が来られてから小聖堂にて目の前で大きな御聖体がいられ、それを求める気持ちは更に強くなりました。

コロナ禍のためにミサや様々な活動が強く制限される中、今は水戸教会の信徒仲間と一緒に土日のミサに与り、御聖体をじっくり味わえて本当に嬉しいです。機会がありましたら高幡教会を再訪し皆さまとご一緒にミサに与りたいと念願しております。

またいつかお会いしたい

ラザロ 石原立教

クリスマスおめでとうございます。私は現在、名古屋の中心部にある布池教会に属しています。ミサは人数制限や時間帯の変更などで不規則ですし、感染対策も厳しく聖歌も歌えません。でも多くの仲間にも恵まれ、聖歌等の指揮やオルガンの演奏をしています。また近隣の教会での音楽指導や聖書の勉強会にも参加しています。

ただ布池が大きな教会のためか、司祭様たちとの、また信徒相互のさりげない親密な交流に不満を感じることもありません。また教会周囲の環境も無機的な都会のそれです。私は布池が嫌ではないのですが、つい高幡教会及び同教会の皆様と比較してしまいます。あの美しく静謐な自然環境と温かく家庭的な雰囲気は忘れられません。またいつか、昨年のお復活祭に受洗した妻と一緒に、皆様にお会いしたいと思えます。



洗礼志願式の様子(11/28)

全ての命を守るためのキリスト者の祈り

宇宙万物の造り主である神よ、あなたはお造りになった全てのものをご自分の優しさで包んでくださいます。

私たちが傷つけてしまった地球と、この世界で見捨てられ、忘れ去られた人々の叫びに気づくことができるよう、一人ひとりの心を照らしてください。

無関心を遠ざけ、貧しい人や弱い人を支え、ともに暮らす家である地球を大切にできるように、私たちの役割を示してください。

全ての命を守るため、よりよい未来をひらくために、聖霊の力と光で私たちをとらえ、あなたの愛の道具として遣わしてください。

全ての被造物とともにあなたを賛美することができますように。

私たちの主イエス・キリストによって。アーメン。

<編集後記>

コロナ時代がどのくらい続くかわからない状況の中、御言葉で生きることを忘れずに祈れるよう見守ってください。そして各自が最善を尽くすよう導いてください。希望と平和のうちにこの困難な時期を克服していける力があることを信じて、互いの喜びと平和を分かち合う日常が早く戻れるよう祈る手を温かく包んでください。(金)

◆高幡教会のミサ時間◆

- ①多摩ニュータウン、電建・高幡
- ②平山、百草・三沢
- ③三井・南平、由木・八王子、
- ・12/26(土) 16:00①, 12/27(日) 9:30②, 11:30③
- ・12/31(木) 16:00事前登録要
- ・1/1(金) 9:30事前登録要、11:30事前登録要
- ・1/2(土) 16:00②、1/3(日) 9:30③、11:30①
- ・1/9(土) 16:00③、1/10(日) 9:30①、11:30②
- ・1/16(土) 16:00①、1/17(日) 9:30②、11:30③
- ・1/23(土) 16:00②、1/24(日) 9:30③、11:30①
- ・1/30(土) 16:00③、1/31(日) 9:30①、11:30②

<11月15日の手紙をご覧ください>

◆高幡教会ホームページの URL ◆

<http://www.cctakahata.jp/>